

厚生労働省
神奈川県労働局発表
平成24年5月28日

【担当】
神奈川県労働局労働基準部健康課
課長 中村 宏彰
労働衛生専門官 金子 正雄
(電話) 045-211-7353
(FAX) 045-211-0048

職場における熱中症予防対策の徹底について

——平成23年県下において死亡災害2件発生——

神奈川県労働局(局長 及川 桂)は、昨年、熱中症による死亡災害が2件発生し、今年も電力不足に伴う節電等により、熱中症が多発するおそれがあるため、職場における熱中症予防対策の徹底を要請した。

平成23年の職場での熱中症による死亡者数は、全国で18人であり、平成22年の47人に比べると、大幅に減少していますが、依然高水準にある状況です。

神奈川県下においては、平成17年に卸売業で1人の死亡者があったものの、その後は死亡者ゼロで推移していましたが、一昨年は3人、昨年は2人の死亡者が発生しています。また、建設業も含めて全産業で休業4日以上災害も23件発生し、熱中症による死傷件数は高水準にあります。

本年も暑い夏が予想され、また電力不足や節電により、熱中症の多発が危惧される場所であり、当局では、管下12の労働基準監督署における事業場に対する指導のほか、毎年暑さが本格化する前に熱中症予防対策の徹底に係る広報を実施することとし、本年5月25日までに、公益社団法人神奈川県労働安全衛生協会、建設業労働災害防止協会神奈川県支部、社団法人神奈川県警備業協会などに対し、熱中症予防対策の徹底について要請を行うとともに、県内の県知事、及び市町村長等に対しても、熱中症予防対策の周知・広報について要請を行いました。

熱中症の早期警戒のお願い（神奈川県労働局健康課）

- 昨年、神奈川県内で労働者の方が2名熱中症で亡くなっています。
- 職場における熱中症の死亡災害の3割は6月中に発生しています。初夏は気温の変動が大きく、熱への体の順応も不十分です。職場では早めに警戒してください。
- 夏は、暑くなくても作業中は水分と塩分を十分補給してください。十分な休憩を取ることも大切です。
- 体に変調を感じたら、又は変調を訴える人が出たら、すぐに医師の診断を受けましょう。熱中症が疑われたら、氷で体を冷やし、躊躇せず救急車を呼びましょう。一人にしないことも大切です。

参考

厚生労働省ホームページ

厚生労働省：労働者の安全と健康の確保：職場における労働衛生対策

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/roudoukijun/anzeneisei02.html>

平成23年度熱中症の発生状況

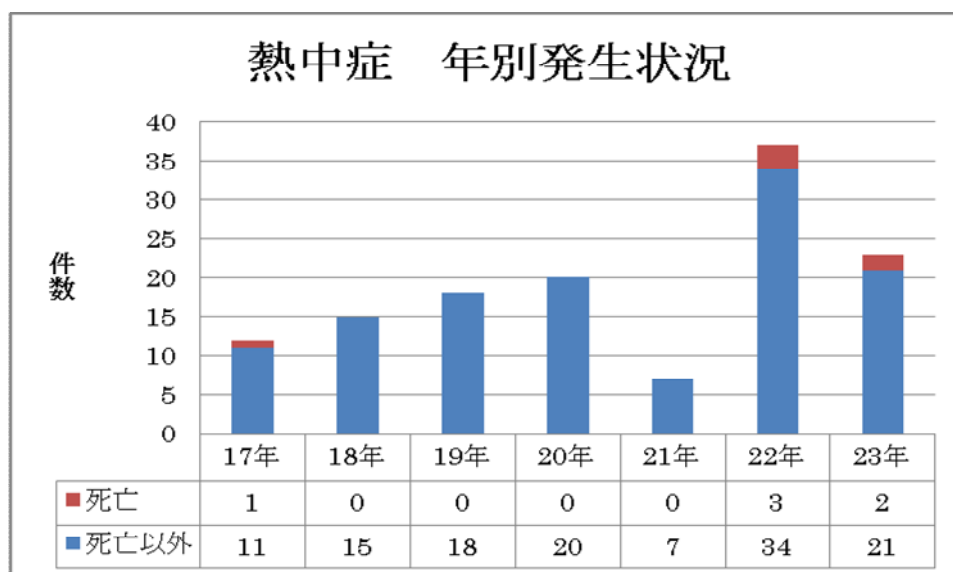
神奈川県労働局健康課

1 平成23年の熱中症による労働災害発生状況

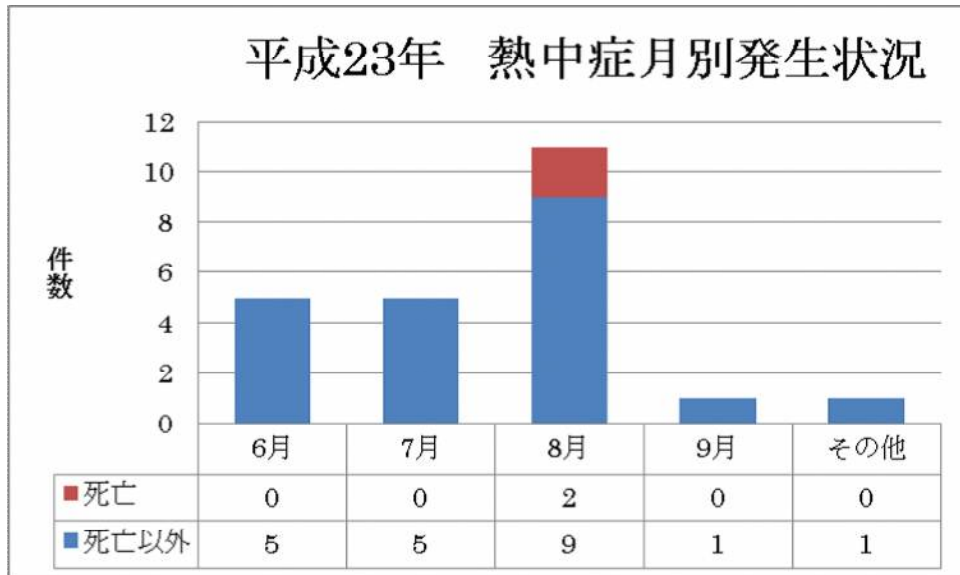
- (1) 熱中症による休業4日以上の労働災害発生件数は、死亡災害2件を含め23件と、昨年度の37件から大幅に減少した。
- (2) 発生月別では、6月5件、7月5件、8月11件、9月1件、2月1件となっており、48%が8月に発生している。
なお、死亡災害は8月に2件発生している。
- (3) 業種別では、建設業が11件と最も多く、次いで製造業が3件、道路貨物運送業が2件、警備業とゴルフ場と商業が1件、その他が4件となっている。
なお、死亡災害2件は、全て建設現場において発生しており、建設業と警備業で各1件発生している。
- (4) 年齢別では、40歳代が8人と最も多く、次いで30歳代が6人、50歳代が5人、60歳代と20歳代が各2人となっている。
なお、死亡災害は、40歳代と50歳代が各1人となっている。

2 平成17年以降の熱中症による労働災害発生状況

- (1) 平成17年以降の熱中症による休業4日以上の労働災害発生件数は132件、うち死亡災害は6件となっている。
- (2) 年別発生件数は下記グラフのとおりである。7年間の年平均発生件数は18.9件で、7月・8月の気温が比較的低温、かつ、日照時間も短かった平成21年は平均の半数以下であり、逆に7月・8月・9月と記録的な暑さで、かつ、日照時間も長かった平成22年は平均の2倍以上の件数となっている。

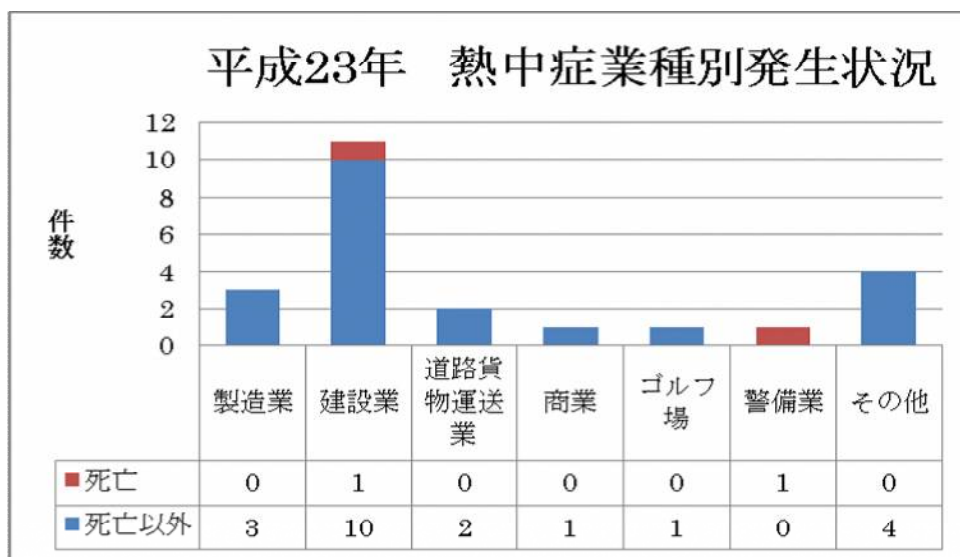


- (3) 発生月別では、8月に80件、7月に33件と、この2か月で全体の86%が発生している。
なお、死亡災害は8月に3件、7月に2件、9月に1件ずつ発生している。



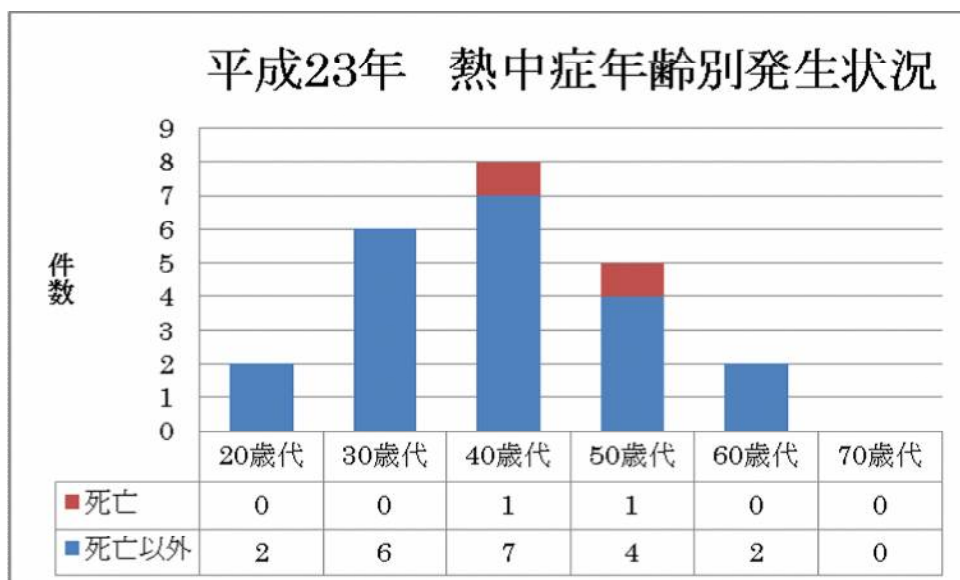
(4) 業種別では、建設業が49件と最も多く、次いで製造業が18件、警備業が12件、商業が10件、道路貨物運送業7件、ゴルフ場が6件となっている。

なお、死亡災害は、建設業で4件、商業と警備業で1件発生している。



(5) 年齢別では、50歳代と40歳代が34人と最も多く、次いで30歳代が27人、20歳代が17人、60歳代が16人、10歳代と70歳代が2人となっており、熱中症による被害は高齢者に限ったことではない。

なお、死亡災害は、50歳代が3人、60歳代、40歳代及び30歳代が1人ずつとなっている。



3 平成23年の気象状況

- (1) 平成23年の夏は、全国的に気温が高かった。太平洋高気圧が強まって気温がかなり高くなる時期と、太平洋高気圧が弱まって気温が低くなる時期もあるなど、気温の変動が全国的に大きかった。

神奈川県下においても同様であった。6月下旬、7月前半、8月上旬の中頃から中旬の中頃、9月前半は、気温が高く、かつ、日照時間も長かった。

横浜における最高気温30度以上の日数は、6月は7日、7月は19日、8月は22日、9月は16日であり、最高気温35度以上の日数も、8月に1日あった。

- (2) また、東日本大震災等による電力不足により、熱中症の発生が危惧されていた。
- (3) 高齢者の自宅での熱中症被害を中心に熱中症が広く新聞・テレビ等のマスコミで取り上げられた。